

## ★ SVCC長野サポートプロジェクト活動

1999年1月に日本人の藤牧勝久さんとベトナム人のオアン夫人が、近隣にある「レヴァンタム公立小学校」の私立の分校としてセント・ビンソン・チャリティ小学校を創立。

ベトナムには公立小学校はあるが、授業料が学校により異なり、それゆえに授業料が払えず小学校に通えなかったりする。また、ベトナムでは出生証明書がないと小学校に入学出来ない制度となっており、地方から出てきた場合、ほとんどの子供が出生証明書を持っていない。この小学校の地域に住む子供は、多くが出生証明書を持っておらず、昼間も道端にいたり働いていたりする子供を見た藤牧夫婦が自費で小学校を創立した。以後この小学校に入学する子供には自費で出生証明書を取得し入学させている。

この小学校をサポートしていた団体（SVCCながの）が長野県内の箕輪町に拠点があり、SVCC長野ではセント・ビンソン・チャリティ小学校の生徒が作製したビーズ細工のアクセサリーを販売し、その収益をベトナムの藤牧氏に寄付している。

当地協ではSVCCながのの支援活動がHPで公開されていること、かつビーズ細工製品の購入金額が明確に報告されていること、また現地の実情に合った支援をしていることから、2009年8月の地協定期大会において支援活動の提案を行い承認され、2010年1月に現地視察を行い、現地での対応に大変感銘し、ビーズ細工製品の販売を実施。

## <支援背景>

### 地協として社会貢献活動の取り組み強化を 2008 年に宣言

#### 1. 2008 年度定期大会議案 (2008 年 8 月 31 日)

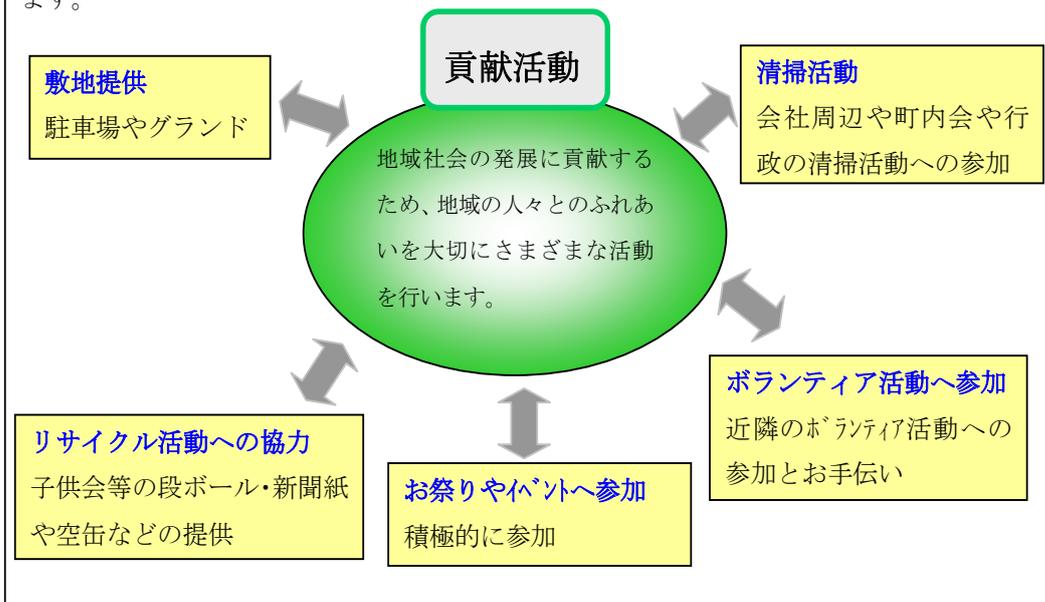
##### ボランティア活動

従来通り電機連合や連合長野と連携しながら、自然災害等の緊急時や地域社会への貢献活動を行なっています。

また、長野地協および地区協独自のボランティア活動に関しても、継続可能なテーマの研究を進め、積極的に社会貢献活動を実施します。定着に向け加盟組合への参加要請も行いません。加えて、地協・地区協主催の各イベント開催時には可能な限りボランティア活動（クリーン活動等）を取り入れ、社会貢献活動に取り組みます。

##### 「社会に貢献する組合へ」

労働組合は組合員や会社だけでなく、社会（非典型労働者対策も含め）や地域との関係をこれまで以上に求められる時代になっています。県労福協からも定年後はNPO活動など地域に戻って地域貢献活動をして欲しいとの要請もあることから、地協として「地域貢献のあり方」をテーマとして地協・地区協にて議論し、出来ることから取り組みを開始します。



## 2. 2009 年度定期大会議案 (2009 年 8 月 30 日)

### (4) 地協独自のボランティア活動の継続と拡大

地協全体で取り組むテーマについては、昨年度より組織部で選定し、いくつかの候補に絞って常任幹事会で議論を進めてきました。

8月10日(月)開催の常任幹事会で確認をいただき、同日開催の幹事会で報告のとおり、長野県上伊那郡箕輪町の団体、「SVCC ながの(セント・ビンソンチャリティークラブ)」の趣旨に賛同し、ベトナムホーチミン市にある慈善事業で設立された私立小学校への支援活動を行います。

#### 【支援活動の理由】

この小学校は、ベトナムの中でも学費の払えない貧しい家庭の子供たちが通う学校で、生徒数は、1年から5年まで130名という小規模な学校です。子供たちは、ビーズ製品を作り、販売して学費や学用品を賄う取り組みをしていますが、ベトナムの中においても、特に貧困層にあることから、家賃が払えない家庭があり、郊外に移り住む関係から、学校に通えない子供たちが増えている。この状況を見た藤牧夫妻が小学校の設立を行い現在に至り、SVCC ながのなど小さな善意によって維持されている。また SVCC ながのではHPにて収支報告もしており、我々支援者にとっても目に見える活動となることから支援することとなりました。

#### 【具体的支援内容】

##### ① 古着収集支援

上記記載のとおり、直接現地に持ち込むことから、収集品目や量について限定して取り組む。

##### ② 子供たちが作るビーズ製品を販売し、学用品や自転車の購入資金に充てる

取り組み期間や具体的な活動の開始については、支援団体を訪問し決定していきます。

また、支援活動や収支については、地協から発信の事務局ニュースや地協HPで公開していきます。



現地小学校授業風景



支援金で贈られた自転車



子供たちが作るビーズ製品



#### 【地域社会貢献活動】

北信地区協：「長野車いすマラソン大会ボランティア」、2009年4月19日(日)、参加者52名

東信地区協：「上田地区県道の清掃活動」、2009年7月11日(土)、参加者24名

「小諸市森林整備地のボランティア」、2009年7月26日(土)、参加者11名

中信地区協：「長野県障がい者フライングディスク大会ボランティア」、2009年7月11日(土)、参加者20名

南信地区協：「諏訪湖の清掃活動、天竜川水系の清掃活動」、2009年6月7日(日)、参加者205名

「福祉施設の美化活動」(飯田)、2008年9月13日(土)、参加者56名

### 3. 具体的取り組み方法

古着収集支援については現地との調整の結果難しい状況であるためビーズアクセサリーの販売に特化する。販売については一度に多くを販売するのではなく、年間組織人員くらいを販売し息の長い活動としていく。また販売による余剰金は現地との調整にもよるが旧正月用の食材等の支援または自転車等の支援をしていく。

(1) 販売方法

8月～12月、1月～7月の期間に分けて、地協行事・地区協の各行事で販売。  
各単組での取り組み要請。

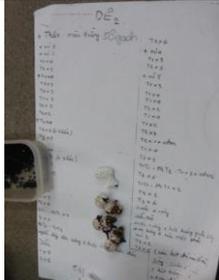
(3) 取り組み期間

2年を目安に取り組み、2年毎運営について見直しを実施する。  
販売目標数は4年間で組織人員の3倍約40,000～45,000個とする。

(2) 窓口

全て「SVCC 長野」さん経由で対応する。

### 1月現地視察写真

		
外からの小学校風景	1年生の授業	4年生の授業
		
ビーズ細工の作業	ビーズ細工の作業	ビーズ細工の図面
		
他支援者からの現物支援	現地視察に伴う現物支援品	藤牧校長先生他、記念撮影

## ★ 2010年1月18日～22日視察報告

2010年1月18日～22日の4日間、セントビンソンチャリティー小学校を訪問し、藤牧校長先生他卒業生徒とも懇談を行いました。視察報告を次ページに記載します。

# 「セント・ビンソン チャリティ小学校」および ベトナムの教育環境について (ベトナム・ホーチミン市)

### ホーチミンの学校教育の現状について

地方で小作人をしていても生活できない人たちが、仕事のあてもなく大都市ホーチミン市へ家族そろって出稼ぎに来て建設現場の日雇い労働として働いている。しかし、このような人たちには住民票を持たない場合が多い。住民票がないと子供は就学することができず、学校の卒業証明書が無いと、成長してもまともな仕事に就けない実態である。また、子どもとはいえ立派な働き手として収入源となるため、働く代わりに学校に行くなどと親が許す状況ではない。

6～7年前まで公立小学校の授業料は無料であったが、ドイモイ政策後、有料化したことと、公立小学校でも授業料が学校によって異なる。よってそれ以降、富裕層は学費の高い学校へ、労働者層は学校へ行かせられない子供が急増。しかし、ベトナム政府は「学校に来させない家庭が悪い」との見解。

現在のホーチミン市内の公立小学校は、小学校での授業を十分行わず、勉強したい生徒は補習（個人）授業（テストの出題内容を教え、個人授業を受けないと成績が上がらない（進級が出来ない））を自宅で受け、補習授業料を別途支払う。（先生はこれにより、賃金を維持している。先生の給与は月6,000円。補習授業料を合計し月10,000円以上になる仕組み）

ただし、授業内容は日本と比べて2学年上で、小学2年生で掛け算・割り算や一次方程式を学んでいる。一般的に教育に対する意識が高く（アセアン諸国と比較しても高水準）、また小学校でも落第が有る（進級試験がある、就学率95%）

小学校で使用するノートやペンは国の指定物。

### 藤牧さんがベトナム人のオアン夫人とともに1999年1月に小学校を創立

ホーチミン市7区は、メコンデルタなど主に地方からホーチミン市へ出てきた家庭が多く、かつ外国資本により高級住宅街ができたり工業団地ができたりと開発が激しい地域であった。また先に記載した通り、都会の学校は学費が高く、地方からやってきた家庭のなかには子どもを学校に通わせられない人もいる。

この状況を見かねた藤牧夫妻（日本人の藤牧勝久さん、ベトナム人のオアン夫人）は、そのような子どもたちが無料で通えて、半日は働けるようにと定時制の私設小学校を1999年1月に創立しました。

ベトナムでは出生証明書がなければ小学校に入学できないため、自費で証明書を取ってあげているとの事。かつ、この学校は近隣にある「レヴァンタム公立小学校」の分校として、卒業時には政府発行のレヴァンタム小学校卒業証書も交付されるようにした。あくまで卒業資格が与えられる学校にこだわった。当小学校でも進級試験があり、試験はレヴァンタム小学校にて受験。

創立当初、支援をしてくれる企業もないため、藤牧さんとオアン夫人は「できる範囲で運営していければ」との考えで、運営費用は藤牧さんが1年の半分を日本で働きその収入で運営。現在も同様。

学費は無料、制服・教材等全て学校から支給（一般の学校の平均的な学費は1.5万円/年、制服・教材等は個人負担）。教師は師範大学を卒業した有資格者で、現在教師の給料は家具インテリ

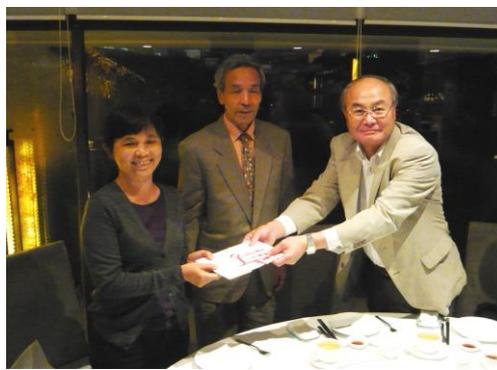
ア大型専門店の「ニトリ」が支援している。

現在、支援者が増えてきたが寄付金は受け取らない。寄付金の支援申し入れがあった場合に、学校で必要最低限の物品の寄付を受け取っている。

### ビーズアクセサリは家庭の収入源

子どもとはいえ立派な収入源になるため、働くかわりに学校に行くなどとは親が許すはずありません。このため学校は定時制にして授業は午前か午後とし、学校に来ない時間はビーズアクセサリづくりなどの仕事の時間に充てた。家庭にも収入を入れられるようにしたため当小学校に入学する生徒も徐々に集まってきたそうです。

子どもたちがつくったビーズアクセサリは、日本の支援者によりフェアトレード商品として各地で販売されています。「学費は無料ですが、そうした労働があることで単に 援助をうけるのではなく『自分の力で学校へ通っている』という自立心も育てていければと思っているんです。」（藤牧氏談）



地協からの記念品  
旧正月でのお米5k、カップラーメン1ダース  
サンダル

地協からの記念品、贈呈式



後列左から2人目が藤巻氏  
後列左から3人目がオアン夫人

## ★ 「SVCCながの」へ自転車を贈呈

1月に現地視察をしてきた時に、参加者から自転車を贈呈したいとの話があり、ビーズ代金の一部と参加者組合の寄付により、2010年6月22日に箕輪町の「SVCCながの」さんの事務所において自転車20台分相当の寄付を行いました。贈呈式では自転車に貼るシールも一緒にお渡しし、自転車を購入した際には貼り付けていただくようお願いしました。なお、シールのデザインは小池政和常任幹事による物です。

SVCCながの様からは、ある一定量を購入していただけている事に感謝と何よりも子供達の生活費に役立っていて助かっているとの事です。今回は現地で藤牧先生との話で自転車になりましたが、定期的に寄付をいただけるのであれば、例えば新入生のかばんと制服なども大変助かるとの話があり、今後の検討課題として行きたいと思えます。

今回寄付をいただきました、長野日本無線労組・新光電気労組・日本電産カキョー労組さんには感謝を申し上げます

### 現地での贈呈式

2010年10月に実施した際の、写真と[お礼文](#)です。



### 電機連合 伊東様

お世話になります。

電機連合様からお預かりした自転車の贈呈式を先週現地で行いました。

画像が届きましたのでお送りいたします。

オアン校長から「本当にありがとうございました」と皆様に伝えて欲しいとの事でした。

贈呈式の画像と学校の様子を写したのも入っています。

皆様によろしくお伝え下さい。

本当にありがとうございました。

SVCCながの 戸田真理子

# 社会貢献先視察写真

2010.1.18～22

ベトナム・ホーチミン市、「セント・ビンソン・チャリティ小学校」

視察団：永田議長、井口副議長、宮島委員長(新光電気労組)、伊東

